

図5 (a) 3月9日の前震前後におけるKNK観測点における体積ひずみの変化。(b) 宮城県沿岸域のGPS観測点における東西(赤)及び南北(青)各成分の変位時系列, 誤差棒は 3σ の信頼区間。(c) GJT3とP02観測点の海底圧力差の時間変化。(d) 観測点配置(東北大学[課題番号:1202])

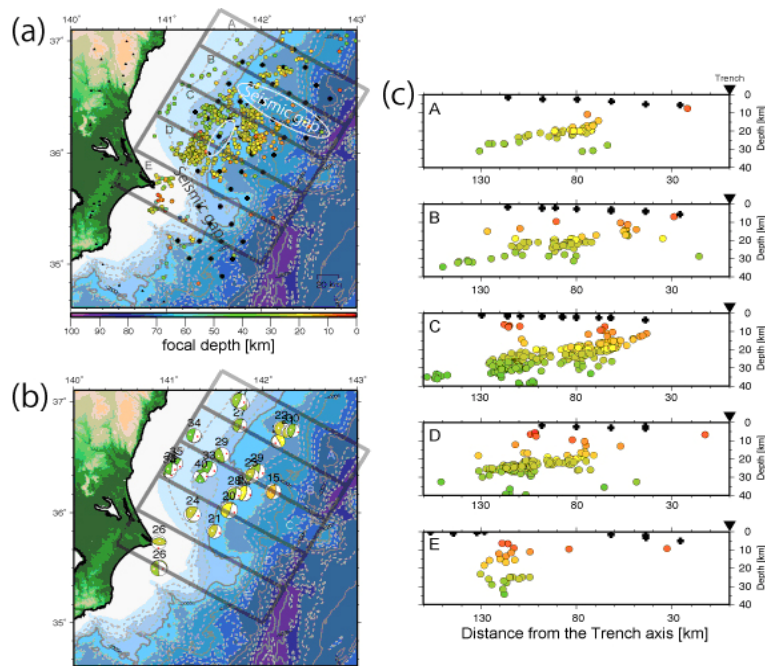


図6 平成20年に実施した長期観測型海底地震観測による房総沖～茨城沖の震源分布。十字が長期観測型海底地震観測点の位置, 丸が得られた震源位置であり, 色は震源の深さに対応している。(a) 震源分布図。領域Bや領域CとDにかけての白楕円で示す場所や, 領域DからEにかけて存在するフィリピン海プレートとの接触部などは地震活動度が低い。(b) 防災科学技術研究所によるメカニズム解と, 海底地震観測により得られた震源の深さ(震源球の上の数値)。(c) 各領域A-E別の震源深さ断面(東京大学[課題番号:1403])